

情報連絡員だより

緊急事態宣言再発令を受け、 厳しい年明け

1月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

緊急事態宣言再発令の余波が本県にも及び、各方面の需要が減少している。特に、旅館や納入業者の落ち込みが激しく、Go To トラベルの停止期間延長が決定されたこともあり、今後について強い不安を抱いている。また、世界的な半導体不足による自動車生産停止を受けて、関連する業種の業況が悪化している。

製造業	食料品		製麺は、緊急事態宣言発令に伴い、業務用の販売が最悪の状況。パンも緊急事態宣言による外出自粛の影響で、来店客数が落ち込む。菓子は、年賀需要が失われたほか、温泉地への入込も悪いため大変厳しい。酒造は、純米酒以外は厳しい状況。食肉は、需要は安定するも、手袋などの値上がりによりコスト増加。
	繊維・同製品		桐生織物は、婦人服地・和装とも厳しい状況の中、積極的な事業展開を模索。刺繍は、資材コストの上昇に加え、長引くアパレル関係の不況が響いている。伊勢崎織物は、売上・収益ともに前年並みに推移。繊維製品は、医療用ガウンの製造を追加で受注する中、量産体制の確立に伴う生産性向上により収益好転。
	窯業・土石製品		生コンは、景気悪化に伴い民間投資は冷え込んでいるが、災害復旧工事など公共工事が下支えとなる。砕石は、西毛広幹道工事が順調であるがゆえに運搬用ダンプ不足が深刻化。コンクリートブロックは、オンライン営業が主体となりつつある中、小さな販売店などは対応に苦慮。砂利は、需要減少で生産落ち込む。
	機械・金属		電機は、緊急事態宣言発令を受け、一部で出張を伴う現地作業を全面的に中止とした。自動車関連は、復活したと思われていた矢先に半導体不足による減産の事態となったほか、鋼材不足の影響も懸念。鍍金は、徐々に好転している企業が多いものの、半導体不足による自動車減産を受けて悪化した企業も見受けられる。
	その他の製造業		ゴム製品は、半導体不足による自動車減産に伴い、自動車向け部品のキャンセルが出始めている。紙加工品は、取引状況は改善されつつあるものの、自動車関係で下請・孫請企業の時短操業や休日増、観光関係はGo To キャンペーン中止の影響が大きい。印刷は、今後の見通しが立たないことを不安視。
非製造業	卸売業		卸団地では、新型コロナウイルスの感染再拡大を受け、各種イベントの開催延期を決定。農産物卸は、緊急事態宣言発令による旅館や飲食店での需要激減に加え、鍋物野菜を中心に相場が冷え込み業況悪化。繊維卸は、取引先メーカーが生産縮小となっているため、仕入が減少している。
	小売業		家電小売は、依然として空気清浄機と加湿器が不足。燃料小売は、前年より販売価格が低下し売上減少が続く。生花小売は、イベント中止が相次ぎ、葬儀も規模縮小のため需要減少。商店街は、飲食店などの時短営業の影響もあり、例年以上に人通りは少ない。中古車オークションは、例年並みの出品台数・成約率を維持。
	サービス業		温泉旅館は、緊急事態宣言発令やGo To トラベル停止期間の延長でキャンセルが続発、各地の施設で平日休業を実施するなど、先行きも見通せず不安だけが増幅している。不動産取引は、雇用不安が影響し、特に個人向けの取引が不振。建築設計は、一級建築士の受験資格緩和に伴う合格者数増加に業界の若返りを期待。
	建設業		建設工事は、公共工事の減少、民間需要の停滞傾向が続く。電気工事は、仕事量が落ち込む中、学校関係の通信システム導入工事が続く。塗装工事は、大型物件・一般住宅ともに仕事量が減少。鉄構は、手持ちの仕事量の二極化に伴う安値受注の動きを不安視。解体工事は、コロナ廃業関連の解体が多少増加。
	運輸業		緊急事態宣言発令も影響し、家庭用食品関係以外は低調な荷動きとなる中、前月比で燃料価格が急騰。野菜関連は、爆弾低気圧の影響でブロッコリー、ほうれん草、ネギなど露地野菜の生育が悪く輸送量減少。小口配送は、スポット配送は減少したが、定期的な医薬品や食料品の配送が増え、全体の輸送量は増加している。

※本調査は、情報連絡員55人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

● 鉱工業生産指数(季節調整値) 97.3(前月比+3.3%)「県統計課・12月」
● 求人倍率(季節調整値) 新規1.92倍・有効1.16倍「群馬労働局・12月」

● 大型小売店販売額 332億円(前年同月比+3.1%)「経済産業省・12月」
● 消費者物価指数(全国) 101.1(前年同月比▲1.2%)「総務省統計局・12月」
(鉱工業生産指数は27年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)